



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和6年 6月11日(火)～9月8日(日)

展示期間 A:6/11(火)～7/9(火) B:7/10(水)～8/6(火) C:8/7(水)～9/8(日)

## 【第4展示室】

### 武家の式楽 — 能 —

足利將軍家は、猿樂＝能を庇護し、高度に洗練された舞台芸能に育てあげた。大名たちにも大いにもてはやされ、公式行事に演能は欠かせぬものとなった。江戸幕府もこの伝統を承け、舞楽が公家の式楽であったのに対して、能を武家の式楽と定めた。

御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。

正月二日(後に三日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うことも必須の教養とされていた。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	能面 深井 焼印「天下一大和」	大宮大和真盛作	江戸	17	A
2	能面 顰		江戸	19	A
3	能面 曲見 焼印「天下一河内」	河内大掾家重作	江戸	17	B
4	能面 小飛出		江戸	17-18	B
5	能面 小面	個人蔵	江戸	17-18	C
6	能面 中将	伝備中掾家政作	江戸	17	C
能舞台					
7	萌黄地籠目に笹蟹文金襴袷狩衣		江戸	18	B
8	紺地松梅文金襴袷狩衣		江戸	18	C
9	白地唐花唐草文金襴袷法被		江戸	18	A
10	紫地牡丹文金襴長絹		江戸	18	B
11	萌黄地蝶・芙蓉折枝文金襴長絹		江戸	17-18	C
12	花色地飛雲文紋紗水衣		江戸	18-19	A
13	松葉色地鶴亀文直垂		江戸	18-19	B
14	黒地松竹・鶴亀文直垂		江戸	19	C
15	花色地小紋素袍		江戸	18	A
16	紅・白・萌黄・紫段籠目に秋の野文唐織		江戸	19	B
17	紅地二重菱に籬菊の丸文唐織		江戸	17	C
18	金・白・紅・花色石畳に牡丹唐獅子文厚板唐織		江戸	17-18	A
19	茶地亀甲に雲版文厚板		江戸	17	B
20	白・萌黄・赤・有平縞熨斗目		江戸	17	A
21	花色・薄浅葱段熨斗目		江戸	18	C
22	菊・桐・輪宝紋蒔絵毛抜形太刀		江戸	18-19	AB
23	萌黄糸巻太刀		江戸	17	C
24	梨打烏帽子		江戸	19	A
25	日の出に松図中啓		江戸	18	B
26	波に入り日帆掛舟図中啓				C